令和3年度学校自己評価表（西武学園文理小学校）

令和4年6月

目指す学校像	英語のシャワーでグローバルなトップエリートを育てる。 （様々な体験学習を通して、バランスのとれた人格形成を目指す。）
重点目標	「こころ」「知性」「国際性」の３つの特質を身につけた児童の養成を重点とした授業展開、生活指導体系を確立する。

達成度		
	A	ほぼ達成(80%以上)
	B	概ね達成(60%以上)
	C	変化の兆し(40%以上)
	D	不十分(40%未満)

学校自己評価						学校関係者評価
年度目標			年度評価			
No.	課題項目	具体的な方策	課題項目の達成状況	自己評価	次年度への課題	意見・要望など
1	こころを育てる 人間性あふれる心豊かな子ども育てる	学校生活の中での、「あいさつ」を習慣化させる。 登下校、授業の開始、終了時はもちろん、廊下などでも積極的に挨拶することを心掛ける。	授業の開始、終了時、満足のいく挨拶ができていた。児童会による朝の挨拶運動などもあり、児童の中から挨拶を積極的に行う雰囲気もある。	A	登下校時、授業開始・終了時、しっかりと挨拶できる児童が増えている。自ら進んで気持ちの良い挨拶ができる児童をさらに増やしたい。 コロナ禍で十分とは言えなかった縦割り活動（登下校サポート・委員会活動・クラブ・CA活動など）を再建するとともに、道徳教育や各種行事を通じて、思いやりや感謝の気持ちを育めるよう工夫する。 社会生活の基盤となる登下校を含めた学校生活において、ルールやマナーを守り、他者と気持ちよく共存できる雰囲気づくりと、一般の方への気遣いができるよう指導したい。	コロナ禍においてもできる限り、工夫や対策を講じて学校行事などを推進することで児童たちに貴重な体験を与えることができた。児童たちも貴重な体験ができたことに感謝の気持ちを持っている様子が窺える。 後期から再開された各種縦割り活動を今後もできる限り継続していけることを期待する。 また、一部の児童に登下校時のマナーが守れないケースが見受けられた。駅指導、ホームルーム指導、また保護者との協力体制や学校内外のルールの徹底が必要とされている。
		優しい心と感謝の気持ちを育む。特に行事や体験・縦割り活動・ペア活動・通学班活動などを推進し、異学年間の交流を通して、協力、思いやり、優しさなどの心を育成する。	前期はコロナ禍における制限などもあり、縦割り活動が十分とまで行かなかったが、後期は委員会、クラブ、CA活動などで上級生が下級生をリードする姿が見られた。	A		
		児童朝会などを通して、校訓である「誠実」「信頼」「奉仕」を実践した児童、生活目標を達成した児童、また学外コンクールなどに積極的に取り組んだ児童を表彰する機会を設ける。	多くの児童が積極的に学外コンクールに参加をするとともに、受賞者が学年集会で表彰される姿を全校で称賛する雰囲気が認められた。	A		
	文理小学校の一員として誇りを持って行動できる児童を育成する	本校卒業生の講話などを取り入れ、文理小学校の児童としての誇りと、先輩への憧れ、そして夢を持ち、それに向かって一層の努力をしようという意欲を育てる。教育内容の充実と、情報の開示およびわかり易い広報活動に努め、保護者の信頼と理解を深めると共に、協力が得られるようにする。	コロナ禍の影響もあり、中学校・高等学校との交流には制限があった。その中でも、中学校CA活動に参加して体験学習をしたり、高校理数科の生徒によるプログラミング講座の実施、本校卒業生による卒業生講演会などの取り組みを行うことで、自らの将来に対して意識を高めることができた。	B	中学生・高校生との交流は一昨年と比べて増やすことができたが、コロナ禍前と比べると依然として不十分である。今後、オンラインなどを通じた交流も検討していきたい。また、現在行っている学外清掃など、地域への貢献の機会を増やし、児童の心を育成する場としたい。	新型コロナウイルス感染拡大で大変な状況下ではあったが、中高生との交流を検討してくれた学園に感謝する。教職員だけでなく地域の方々もサポートしてくれることが児童にとってもよい学びにつながっていると感じているので、今後、中高生や地域住民との交流活動が再開することを期待する。
2	知性を育てる 学ぶことの喜びを体感させ自ら学び考える習慣を身につけさせる	学ぶことの楽しさを実感すると共に、基礎学力の徹底を図る。文理中学校への進学に足りる十分な学力と思考力を養う。また、プレゼンテーション力能力も身に付ける。	感染症予防のため、学年・学級ごとに同一行事を実施するなど、工夫をして体験学習を行い、学ぶことの楽しさを伝えてきた。英語検定、漢字検定を実施するとともに、学年の枠を越えた英語・算数オリンピック等も実施した。	A	知性を育てることの実践に向けて、豊かな学力の構築、思考力・判断力・実行力の涵養、プレゼンテーション能力の育成、リーダーシップ教育の実践を中心に図っていきたい。 また、現在算数で実施している習熟度学習などを参考に一部のその他教科においても部分的に導入することができるか検討したい。 今までも学校保管のPCを児童たちは使用してきたが、令和4年度からタブレットPCを全児童が持つことで、授業のあり方や課題の提出方法などにもより一層の工夫が見られることを期待する。	体験学習を豊富に取り入れていることから、学習へのきっかけ作りができているように思える。この体験学習での興味関心が将来の進路を左右することが予想されるので、コロナ禍にも関わらず実施方法の工夫により多くの経験をさせてもらえる環境にあることに満足を感じている。 学力差のある児童に対しての取り組みついて、放課後の補習の充実を図るなど、きめの細かい指導について改善がなされてきているが、上位層・下位層へのケアなど引き続きより一層の充実を期待する。 ICT環境を積極的に活用し、児童が学内や学外でも学習しやすい環境を整えることを希望する。
		学力向上を図るため、授業や家庭での学習指導の内容の充実を図る。ティームティーチングの実施や不得意科目をもつ児童への対応を心掛ける。	算数においては、ティームティーチング、習熟度学習を実施し、効果を上げた。不得意科目をもつ児童においては放課後の補習などを通して改善を図ってきた。	B		
		教師間の授業見学等を実施し、教師が指導力向上を目指して切磋琢磨する校風を育て、教師のスキルアップに努める。	研究授業を通して指導力の向上を図った。特に、タブレットPC導入に向けて、指導者を適時招き教員間で効果的な使用法について研修を行った。	A		
	小・中・高１２年一貫の教育指導体制を確立する	中学・高校との情報交換および協力態勢を密にし、中高の生徒の実態や本校卒業生の様子や傾向を把握し、小学校における今後の指導に生かすなど、12年一貫の教育指導体制の確立を図る。	高学年児童保護者を対象とした文理中学説明会を開催した。また、小中高連絡会を年5回開催し、教科・分掌での情報共有に努め、英語教育の分野で小中高一貫のグランドデザインを作成した。	A	12年間の一貫教育をより充実させるために小中高において、教科・分掌においてグランドデザインなどを作成し、情報共有・共通理解を図るとともに保護者に大して必要な情報を提供する必要がある。 より魅力ある学校づくりを目指し、STEM教育と英語教育の両面から学校改革に向けて検討を重ねる。	中高の情報を適宜保護者へ提供することを希望する。同時に、小学校から中学・高校へ入学した際にさらなるアドバンテージが持てることを期待したい。 特に、本校が推進する英語教育とSTEM教育については期待値も高く、目標とする進学実績を達成できるようさらなる改善を期待している。演習や放課後の補習などを充実させることで今まで以上に児童の学力を伸ばして欲しい。
		学園の長期ビジョン・第一次中期計画を踏まえ、本校の特色を生かした小中高の一貫カリキュラムの構築を図る。	STEM教育と英語教育の両面から、私学として最先端の教育を児童に提供できるよう、学校改革に向けて検討を開始した。	A		
3	国際性を育てる 真の国際人になるための基本的な能力と価値体系を養成する	英語の授業や音楽・図工・体育の授業の中での英語（文理イマージョン授業）の充実、日常生活の中での英語のシャワー、海外研修をはじめとする外国人との交流や文化の交換等を通して、国際人としての素地を養う。	既存の実技科目（音楽・図工・体育）に加えて、今年度より情報に関しても、英語と日本語での「文理イマージョン授業」を実施した。英語を通して積極的に交流、意見交換しようとする児童が多い。	A	外国人英語講師と接する機会は多く、リスニングおよびスピーキング力が高い児童が多い。低学年からバランスの取れた4技能育成を意識するとともに、引き続き英検対策講座などの充実を目指す。 海外語学研修以外にも海外の学校とオンラインで交流する機会などを増やし、さらなる実践の場を児童に提供する。また、低学年におけるイングリッシュキャンプ（国内／任意）を児童に提供し、英語学習のモチベーションアップにつなげる。 和食作法教室、百人一首大会、論語講座、農業体験などを通じて、伝統的日本文化の理解と習得を図る。	日頃より多くの外国人講師とのコミュニケーションが日常生活の中にあり、英語教育の充実を感じる。また、日本の伝統文化やマナーを学ぶことの意義も大きいと感じる。 コロナ禍で海外研修を経験することができなかったことは非常に残念であるが、成田で実施したイングリッシュキャンプでは外国人講師と英語でコミュニケーションをとる喜びや、オンラインホームステイを通じて異文化に触れることができた。また、長崎研修を実施し、戦争の歴史から国際平和について考える大切な経験となった。 英検に対しては、3級以外の級に対しても学校からさらなるフォローを期待する。上位層・下位層への支援を強化し、実り多い英語教育を期待したい。
		海外研修を通して、語学力の伸長や異文化理解を深める。国際交流を進める中でのプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力の伸長を図る。	世界的なコロナウイルス流行が収まらず、海外研修はで実施きなかったが、オンラインで海外の小学校と交流をしたり、国内でイングリッシュキャンプを行い、英語でのミュニケーション育成に努めた。	A		
		日本人としての自己意識を確立するために、日本の伝統的文化を理解し、習得するための体験学習（礼儀作法等を含む日本食のマナー体験、茶道研修、書き初め競書、おもちつき大会、百人一首大会、短歌つくり、論語検定、田植え、稲刈り、神社奉納等々）の充実を図る。	学校行事に日本の伝統文化を取り入れ、児童が体験できるように工夫した。将来国際人として活躍するには日本の伝統をしっかりと身に付ける必要があることを児童に伝えた。	A		